年間授業計画　新様式例

高等学校　令和６年度（１学年用）　教科　芸術　　科目　音楽Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　音楽Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　１学年　A　組～　E　組

教科担当者：（A組：　　）　（C組：　　）　（D組：　　）　（E組：　　）　（　組：　　）　（　組：　　）

使用教科書：（ 音楽Ⅰ　Tutti＋　教育出版社編　　）

教科　芸術　　の目標：

【知識及び技能】芸術(音楽Ⅰ)に関する特質を理解し、その科目の意図に基づいて表現するための知識･技能を身に付けられるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】芸術の持つよさや美しさを深く味わうことができるようにし、各科目の持つ創造的な表現を工夫したりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】芸術を通して豊かな情操を培うことにより、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造する心を養い、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育む。

科目　音楽Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
音楽の構造や曲想、文化的・歴史的背景等との関わり及び音楽の持つ多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけられるようにする。	自分のイメージで音楽を表現したり、創意工夫したりすることができるようにすると共に、音楽を聴いてそのよさや美しさを自ら味わうことができるようにする。	主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、自らの感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			歌	器	創						
1学期	A 単元「楽典の基礎知識」 【知識及び技能】 音符の長さ・種類等を理解してそれを使いこなしたり、音楽の演奏や創作において活用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 学習した音符を使っていろいろなリズムの特徴を理解したり、複雑なリズムパターンを理解したり、創作時や演奏時にその表現・応用をしたりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に音符を学習することにより、いろいろなリズムを理解し、それがいろいろな種類の音楽で使われていることを応用して独自のリズムを考えたり、さらには創作においてそれが十分に生かされるようにすることができる。 B 単元「器楽演奏・・ギター」 【知識及び技能】 音階が正しい指で正確に弾くことができる。ギターの特質と構造を理解し、それに合わせた曲の練習や演奏ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 楽典で学習した音符の知識を利用して練習や演奏ができる。いろいろな曲の曲想を理解し、ギターの特質に合わせてテンポや強弱を表現することができる。	(楽典の基礎知識) ①ト音記号の音の読み ②音符の種類と使い方 ③いろいろなリズムの作り方 ④リズムの読みとり ⑤学習した音符の実践 (楽器演奏・ギター) ①自ら進んで練習の準備ができる ②正しい指使いと姿勢で練習できる ③適正な速さと強さで演奏できる ④練習に際して直向きさと向上心が見られる	○	○	○		(楽典の基礎知識) a・・・・ト音記号上に書かれた音符を間違いなく読み取ることができる b・・・・いろいろなリズムを打つことができ、演奏時に使うことができる。 c・・・・個性的な音符の動きを理解したり、個性的な独自のリズムパターンを創造・創作したりすることができる。 (楽器演奏・ギター) a・・・・正しい指の使い方と正しい音符の読みにより、正確な速さと正しい姿勢で演奏することができる。 b・・・・演奏に際して表現力が豊かで、自らの考えや思考が音楽に取り入れられている。 c・・・・他の生徒と協力して練習の準備をし、楽しく練習に参加することができる。また練習で得た知識や技術を発展させて練習に立ち向かうことができる。	○	○	○	24
2学期	A 単元「音楽史」 【知識及び技能】 各時代の音楽の特徴と文化的・歴史的背景を理解している。各時代の音楽家の生涯を正しく理解し、社会との関わりや音楽家の心情を理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】 その時代の特徴や社会を正しく理解し、現代と比較したり、社会と音楽家との関わりを知ることにより、作品が作られた背景を理解し、同時代・異時代の音楽家を比較研究したりすることにより、音楽の構造や音色等の違いを認識することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・協動的に授業に参加し、提出物やワークシートの管理・提出を怠ることなく楽しく授業に臨んでいる。 B単元「器楽演奏・・キーボード」 【知識及び技能】 楽器の持つ特性を理解し、音階や曲が正しい指で正確に弾くことができる。 　楽器の構造や性能を理解することにより、その楽器にふさわしい技術を習得し、練習に参加することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 　楽典で学習した音符の知識を活用して楽譜を読み取り、演奏ができる。 いろいろな曲の曲想を理解し、その曲に合ったテンポや強弱で演奏時に楽曲を表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら進んで楽器練習に向かう態度が伺える。また楽器練習で得た知識や技術を発展させて主体的協動的に学習することができる。	(音楽史) ①各時代・年代の歴史の理解 ②各時代・年代の音楽家の生涯 ③各時代の音楽家による楽曲の背景 ④音楽家の生涯について自分の意見が持てる ⑤ワークシートの書き方と整理 (楽器演奏・キーボード) ①正しい指と姿勢で音階が弾ける ②指定された指で楽曲が弾ける ③指定された正しいリズムで間違えないように楽曲が弾ける ④練習時の態度に直向きさが見られ、協動的かつ主体的な状況で練習している	○	○		○	(音楽史) a 音楽史の各時代の特徴を理解し、各時代の音楽家の生涯や主な楽曲について理解している。 b 時代背景と楽曲との関係を理解し、時代による楽曲の構造や曲想の違いが理解出来る。また現代と社会と楽曲の違いを比較してその違いを理解し、意見が持てる。 c 主体的に音楽史を学ぼうとする意欲があり、授業での発言や意見を言うことができる。又学んだ史実からいろいろなことを想像したり、考えたりすることができる。 (楽器演奏・キーボード) a 正しい指の使い方と正しい音符の読みにより、正確な速さと正しい姿勢で演 奏することができる。 b演奏に際して表現力が豊かで、自らの考えや思考が音楽に取り入れられている。 c他の生徒と協力して練習の準備をし、楽しく練習に参加することができる。 また練習で得た知識や技術を発展させて練習に立ち向かうことができる。	○	○	○	28
3学期	A 単元「自由選択による楽器演奏、又は音楽研究レポートの作成」 【知識及び技能】 　①楽器の持つ特性を理解し、音階や曲が正しい指と姿勢で正確に弾くことができる。楽器の構造や特徴を理解し、その楽器にふさわしい演奏技術で練習ができる。 　②レポートにしようとするテーマが明白であり、内容をしっかり捉え、文章の内容が的確で分かりやすく書かれている。 【思考力、判断力、表現力等】 　①演奏曲目の選択が自身の技術力に対して的確であり、演奏が表現力に溢れ、1.2学期に学習た事を生かし、自信を持って練習・演奏している。 　②レポートの内容に独自の思考が生かされており、レポートの内容が表現力に溢れ読みやすく、レポートが挿絵や写真の添付等によって創意工夫されている。 【学びに向かう力、人間性等】 　①意欲を持って楽器演奏に臨み、演奏曲目の選択も的確で、練習時に楽しく協動的な態度が伺える。又演奏に際しては独自の創意工夫の跡が見られる。 　②学習時に主体的・協動的な様子が伺われ、十分な量の資料が用意され、内容を書き写すだけでなく、自分の意見を十分に取り入れながら、個性的で斬新な研究レポートが作成されている。	楽器演奏 ①指使いや音が間違いないかの確認をする ②その曲に合ったダイナミクスと表現が出来ているかを確認する。 ③準備と後片付けが的確で、主体的・協動的に練習出来ているかを確認する。 レポート研究 ①資料についての問題点が無いかの確認 ②誤字・脱字が無く、読みやすく的確に書かれているかの確認 ③内容が丸写しになっていないかの確認 ④レポートの表紙や挿絵・写真の貼付け等に創意工夫がなされているかの確認。	○	○	○	○	楽器演奏 a・・音に間違いが無く正確に演奏できている b・・表現力を持って演奏できる c・・曲の選択が意欲的で練習態度も良く集中して練習している レポート研究 a・・レポートの分量が適正で読みやすく誤字・脱字が無く分かりやすいレポートである b・・レポートの内容が創意工夫され、斬新で独自の表現力を持って書かれている。 C・・文章が意欲的に個性を持って書かれており、選択したテーマに対しても独自の視点に立った主体的なレポートである。学習時においても集中して意欲的な態度で研究していた。	○	○	○	18
										合計	
										70	